

りゅうおう

議会だより

No.204
2023年8月1日
滋賀県竜王町議会

竜王新古今八景
虫送り

農耕と民俗芸能に

まつわる祭事

- 定例会報告 P2～ 低所得世帯支援事業
- 委員会報告 P4～ 重層的支援体制整備事業
- 一般質問 P9～ 「交流・文教ゾーン」整備事業の進捗は

6月定例会

6月定例会が6月8日から23日までの16日間の会期で開催されました。条例案件2件、補正予算3件、町道認定2件、工事請負契約1件、損害賠償請求事件の和解1件、人事案件14件が上程され、原案どおり全員賛成で可決しました。

令和5年度一般会計

今回の補正額 **1億5,519万円**

予算総額 **73億402万円**

主な内容(事業)



バイオマス資源循環推進報償費
150万円



町観光協会補助金
110万円



**企業立地推進事業費
(上下水道事業負担金)**
2200万円



**商工振興費 割引クーポン券
取扱業務委託料および通信運搬費**
2980万円



**低所得世帯に対する電力・ガス・食料品等価格
高騰支援事業割引クーポン券取扱業務委託料**
2850万円

主な 質疑応答



近江うし丸

問 低所得世帯でクーポン券は使いにくいと思うが、システム改修に費用がかかるのか。
答 現金給付は貯蓄に回されたり、違う用途に使われたりする懸念があるので公金の趣旨からクーポン券事業とした。また、単純にシステム改修だけで比較すると、クーポン券事業の方が経費がかかるように見えるが、事務経費を加えた経費総額は同額程度になる。

低所得世帯支援事業

町観光協会補助金事業

地域計画策定推進事業

問 大型商業施設に新しく常設の観光案内所が設置されるが、時間帯や人員体制等の詳細は。
答 1階センターコート横の総合案内所に隣接し、当面は来客者の多い日曜日の10時～15時を有人案内として検討している。その他の日は、デジタルサイネージなど無人の状態での対応を考えている。

問 地域計画の推進にあたっての現状は。
答 令和5年度から開始する地域計画の策定に向け、令和4年度から大きく二つの支援をすることで行った。一つめは、地域計画の前段にあたる人・農地プランの策定支援で、集落の話し合いを通して10年後の耕作の予測地図を作成していただいた。

二つめは、集落営農活性化プロジェクト促進事業の取組支援で、令和5年度は県内10団体の採択うち、5つが本町の集落営農法人であり、補助金を活用しながら将来に向けた話し合いやビジョン作成等がされている。

問 バイオマス資源循環推進事業の内容は。
答 バイオマス資源の循環を目的とし、稲わらを近江牛の飼料として利用し、この飼料で育った近江牛の堆肥を水稻栽培で活用している。本事業で町内農家の稲わら収集をさらに推進する。

バイオマス資源循環推進事業

6月臨時会

6月1日に第2回臨時会を開催し、補正予算1件、専決処分2件が上程され、慎重審議の結果、全て原案の通り可決されました。

補正総額

(内容)

低所得の子育て世帯生活支援特別給付金（ひとり親世帯以外）給付事業

643万円

総務産業建設常任委員会

調査 庁内ネットワークシステムについて

1 庁内ネットワークシステムの構成

「新たな自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化」の要請があり「三層の対策（三層分離）」によるセキュリティ対策の強化、安全確保のため、平成28年度に整備を行った。3層のネットワークがそれぞれ物理的に分断されることで情報の流出を防いでいる。

- ① 個人情報扱う基幹系
- ② 内部の通常事務を行う内部事務系
- ③ インターネットを利用するインターネット系

2 自治体システムの標準化

令和7年度中に国の標準準拠システムに移行するため、令和5年度はシステムへ移行の準備として各業務担当者において、システムの確認、調整作業を進めている。

主な質疑応答

問 滋賀県情報セキュリティクラウドはどのような性質のものか。

答 このクラウドを介することで安全な専用の回線になっており、外部からのサイバー攻撃を防御しているものである。

視察 行政視察研修

5月17日から19日に福島県新地町と宮城県山元町へ委員全員出席のもと、行政視察研修を行った。

新地町：「自治組織の消防団員確保対策および防災・減災に向けた取組」について

自主防災組織の意識は高まってはいるものの現在の消防団員数は年々減少傾向にあるため、職員も消防団員に加入されていると説明を受けた。減災の考え方を防災の基本とし、「自助」、「共助」、「公助」の精神に基づき連携しながら、ハードとソフトを組み合わせ対策を講じる必要性を実感した。

写真は、防災機能を確認しながら地域活性化につなげられる防災緑地公園として整備された釣師防災緑地公園である。

山元町：「移住・定住支援の取組」について

「若い人を出さない」「戻ってきてもらう」「町外の人に転入してもらう」ための多くの移住定住施策を実施されている。

移住・定住支援事業として年間1億円弱の支援策を設けている。竜王町も現在の人口減少幅の拡大基調を考えれば、一層支援策の充実を図らなければならないと実感した。



調査 竜王町建築物耐震改修促進計画書について

◇計画の背景

平成7年に阪神・淡路大震災が発生したことに鑑み、建築物の地震に対する安全性の確保が大きく認識されたことから、平成7年10月に建築物の耐震改修の促進に関する法律が施行された。

法律では国・県・市町村の役割が定められており、本町では、平成17年度に計画を策定し、令和5年3月に改訂を行った。

◇計画の概要

1 計画の目的

今後予想される地震災害に対して、町民の生命、財産を守ることを目的として策定する。

2 計画の期間

令和5年度から令和12年度までの8年間

3 計画の対象とする建築物

住宅：戸建て住宅、共同住宅等
町所有建築物：社会福祉施設、公民館等

4 住宅の耐震化の状況と目標

令和12年度末には耐震化不十分なものを概ね解消することを目標とする。

5 建築物の耐震化を促進するための施策

耐震診断・改修を図るための支援策

① 耐震診断・改修費用の助成

建築物の所有者が行う耐震診断・改修に対して自治体が費用助成をする場合に国から一定の割合を限度として費用助成がされる。

② 税制上の優遇制度等

建築物の耐震化を促進するための施策として、国の住宅金融支援機構では税制上の優遇制度や融資制度を設けており、町ではこれらの措置に関する情報提供に努め、耐震化の促進を図る。



取り壊し予定の南部地区防災センター

主な質疑応答

問 昨年度の耐震対策の補助件数とこれまでの補助件数は。

答 昨年度はブロック塀の補助2件である。

現在までの実績は耐震診断90件、耐震補強案8件、耐震改修1件、ブロック塀の補助12件、耐震シェルター設置1件、感震ブレーカーの設置1件である。

問 耐震対策の補助を受ける場合は、事前に申請するのか。

答 工事をする前に申請していただき、交付決定後に工事に着手してもらい、実績報告後に補助金額が確定する。

◇包括的な支援体制と重層的支援体制整備事業との関連性について

* 包括的な支援体制の整備

平成29年に成立した改正社会福祉法は、地域共生社会の実現に向けて「包括的な支援体制を整備することが努力義務」として位置付けられたことに伴い、具体的な取組を推進していく。

* 包括的な支援体制の構築を推進するための視点

「断らない相談支援」・「参加支援」・「地域づくりに向けた支援」の実施

◇重層的支援体制整備事業

これまでの福祉制度や政策の中で、困難や生きづらさを抱えるすべての人々のための仕組みであり、竜王町においては令和4年度より重層的支援体制整備事業に取り組んでいる。

具体的には①属性を問わない相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援の3つの取組を支援の柱とし、これらの支援をより効果的、円滑に実施するために④他機関協働による支援、⑤アウトリーチ等を通じた継続的支援を新たな機能として強化し、①から⑤までの事業を一体的に実施する。

主な質疑応答

問 行政の「地域福祉計画」と社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」を一つのものとする福祉の総合的な計画として取り組まれ、困難性が想定される中、計画倒れにならないか。

答 計画策定の時点から、最初からできないことを計画に掲げるのではなく、事業を進める上において考えられること、また、さらに進めなければならないこともわかっていくことから、それらのことも想定して、できることを大切にまとめた。行政と社会福祉協議会との連携を強めていき、必要なことから実施段階においても定期的な報告、情報交換等の場を持ち計画を進めていきたい。

問 この計画にかかる進行管理については、地域福祉計画推進委員会や議会に対しても各事業の評価結果を報告するとあるが、単なる結果報告にとどまらず、具体的な取組についても報告してもらえるのか。

答 単なる結果報告にとどまらず、具体的な事業の進捗状況・目指すべき姿・数値目標を含めて、さらに詳細な事業計画に基づく報告や5か年計画での1年目の達成状況等を含めた報告に努めたい。

視察 鹿児島国体 南さつま市スポーツライミングリハーサル大会視察調査

◇2025年竜王町初国スポ開催に向けての会場・施設・開会式・競技・進行等を視察

6月9日から11日に鹿児島県南さつま市加世田特設スポーツライミング会場において鹿児島国体前のリハーサル大会の視察を行った。会場にて南さつま市長および大会関係職員との本競技開催に向けての貴重な話合いの機会を得て、当競技種目開催に向けての市民の皆様への周知・PRの取組、リハーサル大会での地域住民や高校生等のボランティア募集など、住民一体となり国体を盛り上げていくための機運醸成が図られていることを実感した。開催まであと2年、町制70周年の記念すべき年でもあり、竜王町全体で国スポ開催に向けて盛り上げていくべきと痛感した。



ボルダリング競技



南さつま市長（中央）と委員



リード競技

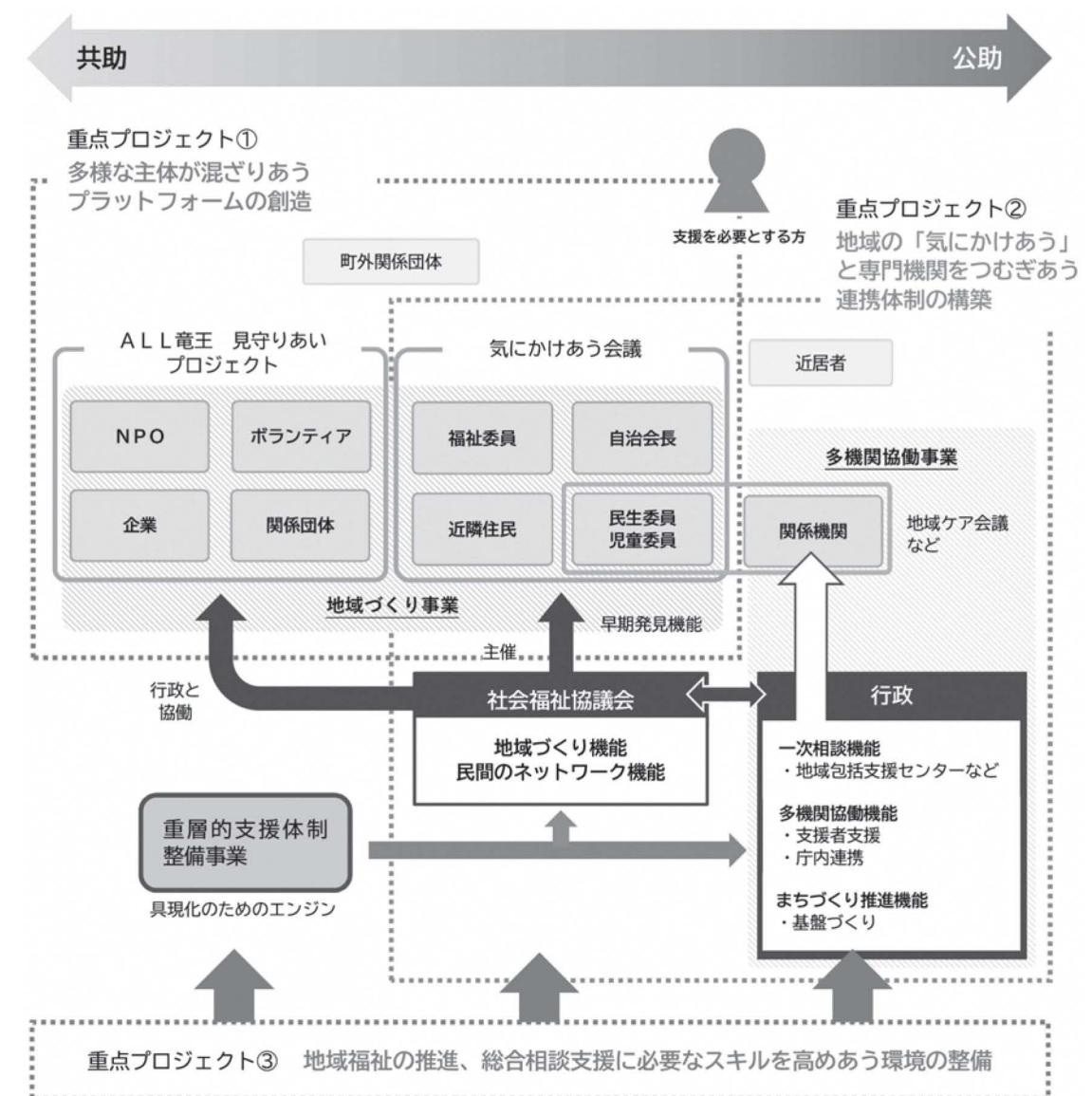
教育民生常任委員会

調査 地域共生社会の実現に向けた総合相談支援体制の推進
～重層的支援体制整備事業を活用した取組展開について～

◇竜王町地域福祉計画の策定にあたって

近年、町内において人口減少、少子高齢化、世帯当たりの人員数の減少傾向が進んでいる。これにより今まで支えあいの基盤となってきた家族、自治会機能低下などが想定されるため、行政として支えあいの基盤づくりを進めるとともに、生きづらさや不安を抱えている人を受け止める体制の構築を目的としている。行政の公助の責務と社会福祉協議会の共助の推進を整理し、福祉の総合的な計画として一体的に策定したことが大きな特徴である。

◇竜王町における包括的な支援体制の全体像



◇計画の推進

本計画は計画（PLAN）、実行（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTION）に基づき、進行管理（PDCAサイクル）によって推進し、その達成状況や今後取るべき改善策等については行政、社会福祉協議会それぞれの合議体において毎年報告し合意形成と意思決定を行う。

町政 ここを問う!

6月定例会では11議員が23問の一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて所信や疑問を質し報告や説明を求めることです。

ページ	質問者	質問事項
10	鎌田勝治議員	・ GIGAスクール構想の進捗状況は ・ 行政施策の見える化は
11	磯部俊男議員	・ 竜王町の文化財の保護、保存、調査は ・ 春開始の新型コロナワクチンの接種率は
12	大前セツ子議員	・ 学校給食費の無償化は ・ 投票率向上に向けた取組は
13	小西久次議員	・ 農業版少子化対策の取組は ・ 「交流・文教ゾーン」整備事業の進捗は
14	福田優三議員 岡山富男議員	・ 下水道管整備を行った農道の状況は ・ 近江八幡消防署竜王出張所の人員確保を
15	中村匡希議員	・ 消防団員の定員と負担の軽減は ・ 空家対策計画の見直しのポイントは※ ・ 新小学校の開校時期は
16	尾川幸左衛門議員	・ 町道の維持修繕は ・ 地震の対策は
17	橘せつ子議員	・ 中心核「交流・文教ゾーン」整備の進め方は ・ コミュニティセンターと町公民館のあり方は ・ 竜王町防災計画の指定緊急避難所のあり方は※ ・ 竜王町職員のメンタルヘルス対策は※
18	森島芳男議員	・ IBMグラウンド跡地の現在までの進捗は ・ 日野川の補強対策は
19	澤田満夫議員	・ 滋賀県立大学との包括連携協定の成果は ・ 鵜川の旧小学校跡地の有効活用は

※紙面の都合上、掲載しておりません。
QRコードから、全ての質問がお聴きいただけます。

各議員のQRコードを
スマートフォンで読み
取ると音声配信が聴け
るよ



近江うし丸

次回の一般質問は
令和5年8月29日(火)予定

議員の質問順は町ホームページでご確認ください。

☎ 議会事務局 電話 0748-58-3713

地域活性化特別委員会

調査 中心核整備の進捗・公民館とコミュニティセンターの一体的な整備検討

◇中心核整備（交流・文教ゾーン）の進捗

土地収用法に基づく事業認定申請書を滋賀県に提出し、その申請に対して公聴会の開催請求および意見書が滋賀県に提出されたことから、公聴会および土地収用事業認定審議会が開催される予定となっていると説明を受けた。

◇公民館とコミュニティセンターの一体的な整備検討

公民館とコミュニティセンターの一体的な整備検討については、公民館の機能・役割や公共施設等総合管理計画での位置付けやコミュニティセンターとして、竜王町の将来に必要な機能と施設整備スケジュール（案）の説明を受けた。

主な質疑応答

問 公民館を建て替えるには補助金はないが、コミュニティセンターであれば補助金があるためその制度を利用するということか。

答 公民館は町の生涯学習の拠点であり、まちづくり、人づくりの拠点であると考えている。公民館については、令和16年度には築60年を経過することになり、将来を見据える中、コミュニティセンターに公民館機能を付加できる複合施設として国の補助金により整備できないか検討している。

問 コミュニティセンターと公民館を一体化し、将来的に公民館を除却することを検討しているとのことであるが、町民に説明する機会を設ける予定はしているのか。

答 ある程度の方針を固めてからの説明は必要と考えており、今後、利用者も含め多くの皆さんに意見を聞く機会を設けていきたいと考えている。



議会ICT化特別委員会

報告 ペーパーレス会議システムの比較検討と委員会成果のまとめ方

◇ペーパーレス会議システム

詳細な資料をもとにして、各システムの利便性、閲覧機能、コストパフォーマンスといった点を重視し、メリットとデメリットを慎重に検討した。それらの検討の結果、本委員会としては、全国で520自治体の導入実績があり、豊富な機能と優れた使いやすさを兼ね備えたペーパーレス会議システム「サイドブックス」が導入するシステムの中で最も適切であるとの結論に至った。

◇委員会成果のまとめ方

本委員会は、昨年6月に発足して以降、9回の委員会と1回の視察を行い、その都度意見交換や疑問点の確認、さらには3度のペーパーレス会議システムのデモンストレーションを行った。

これらの取組を来期の議会に伝えるため、また今後の改善点を明確にするために、次回の定例会で報告書を詳細に取りまとめる。

問 竜王町の文化財の保護、保存、調査は

答 町民の皆様のご理解を求めつつ
文化財保護に努める

活用するなどして対応に努めている。埋蔵文化財については県の定める出土遺品取扱ひ基準を踏まえ、町公民館、図書館等の公的施設で保管、保存をしている。さらに、防虫、湿度管理等が必要な古文書や美術工芸品については、本町に条件を満

答 文化財の把握、確認調査、保存については町内の仏像彫刻および建造物をはじめとする調査で特に貴重なものは町指定とするとともに町史に記録する等により保存対応をしている。

問 「文化財の宝庫
竜王町」における文化
財の保護、保存、調査
とともに伝承にかかる
対応は。

将来にわたって貴重な文化財を継承するために、行政だけでなく文化財への理解を深めていただくことが必要であり、引き続き、文化財保護民俗芸能の伝承に地域住民の皆さんと連携して取り組みとともに、町としても啓発に努めていく。

たす収蔵施設がないことから、所有者から滋賀県安土城考古博物館等への寄託の仲介により保存管理をしている。



国宝苗村神社西本殿

6月11日現在、50・8%の1726人で、県内市町において2番目に高い接種率となっている。秋期開始接種は9月頃

春開始接種については約3700人を対象者とし、町公民館での集団接種および町内医療機関等での個別接種を実施している。

答 令和5年度のワクチン接種は、引き続き特例臨時接種とされ、春開始接種が初回接種を終了した65歳以上の高齢者、基礎疾患を有する方等を対象に、また、秋開始接種は初回接種を終了した5歳以上すべての方が対象になる。

問 春開始接種のワクチン接種状況と今後の対応は。

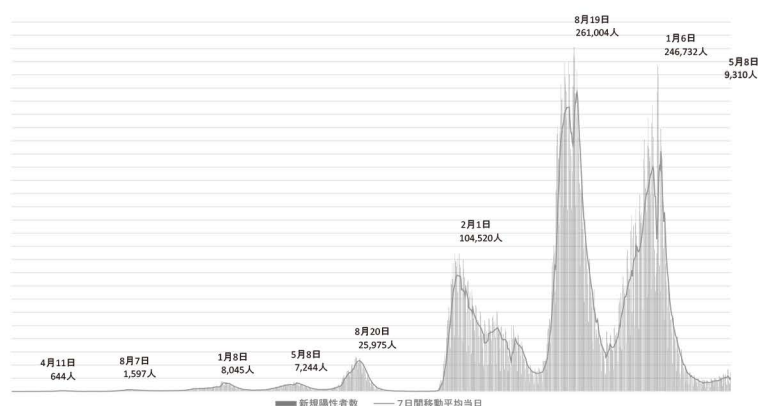
答 接種率は50・8%（令和5年6月11日現在）

問 春開始の新型コロナワクチンの接種率は

を予定し、対象者は約9400人と想定されるが、希望されるすべての方々が接種できるように準備を進めている。

併せて、国、県と連携して適切な感染症対策を実施し、町民皆様の安心安全な生活につなげていきたいと考えている。

新型コロナウイルス感染症の国内発生動向（報告日別新規陽性者数）



問 GIGAスクール構想の進捗状況は

答 構想の具現化を進め、授業改善に積極的に取り組む

- ①先進地訪問を含めた研修会の実施、ICT活用実践事例集の作成、IE部会の発足により職員のスキルアップとリーダーの養成を図っている。タブレット活用ブックを編集し、活用頻度を高めるよう働きかけてきた。
- ②教職員の端末活用力にレベル差が生じている課題がある。このことが児童生徒の学びの差

① オンライン授業に向けた取組として、教職員のスキルアップ、ICT推進リーダーの養成、授業における有効活用 of 各進捗は。

② 個別最適化学習を推進するうえで新たな課題は。

③ 端末の有効活用が子どもたちの主体性を育む教育にどのような関わっているか。

④ 令和5年度の目標は。



ICT推進会議の様子

③ 自分の学習履歴を振り返り、新たな活動に結びつけ、学習に前向きに取り組んでいくことが、主体的な学習に結びつくと考える。

④ 端末を児童生徒が自由に「使いこなす」ことを目標にGIGAスクール構想の具現化を進める。具体的には、実践事例をまとめてICT活用実践事例集を作成し、授業改善に積極的に取り組む。

①前年度の取組実績がま
とまり次第、当該年度
に位置付けた項目およ
び計画内容と合わせて
情報の更新を行ってい
るが、更に詳細な内容
を別掲載するなどより
良い内容となるよう引
き続き検討する。

問 行政施策の見える化について、次の4点を伺う。

- ①重点施策プロジェクトで令和4年度の取組が簡単な説明文しかないのはなぜか。
- ②令和5年度の取組目標がないのはなぜか。
- ③情報発信ツールとしてのホームページの見直しはどのように行われたか。
- ④ホームページの今後の有効利用について、現時点での方針は。

問 行政施策の見える化は

答 ホームページを有効活用したい

②前年度の結果と合わせて、当該年度の行政執行方針や町を取り巻く状況を考慮し、熟議を経ているため。今年度は6月末を目途に掲載予定である。

③竜王町魅力発信マニュアルを作成し、施策の見える化を図った。引

④ ホームページに行政情報を集約して、他の媒体から誘導したりアンケートフォームに寄せられる利用者の声を反映してより良い運用に努める。



「明るく元気で活力あふれる強いまち竜王町」「次世代に誇れる竜王町」の実現に向けて、竜王町では、緊急的に取り組むべき課題、優先的に取り組むべき課題を整理し、重点プロジェクトとして位置付け、複数の課題がアイデアを持ち寄り、さまざまな角度から検討し、計画を立て実行する横断的なチームをつくり、課題解決に向けて進めています。

童子町ホームページ



こにし きゅうじ 久次 議員

問 農業版少子化対策の取組は

答 農業振興ビジョン(実施計画)により
5年間で戦略的に取り組む



①国の補助による集落営農活性化プロジェクト促進事業(人材育成等)に5集落が取り組み、「人・農地プラン」では10年後の目標地図の作成など話し合いを支援した。

②担い手農家への農地の集積集約を行う。小規模では、「1経営体1ha農業」に取り組み、やりがいや所得の向上により継続を図る。



集落での話し合いの様子

③国が進める地域計画を令和6年度末までに27集落で策定を進める。町単独で魅力ある農業創生事業補助金を拡充する。

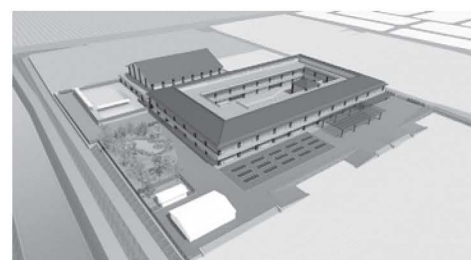
④農業ビジョン基本構想を「プロフェッショナル農業」、「観光・6次化農業」、「地消地産・健康農業」、「土地利用型農業」、「循環型農業」の5つの戦略に基づき農業振興を図る。具体的な実施計画は町民の皆さんに周知する。

⑤国が進める地域計画を令和6年度末までに27集落で策定を進める。町単独で魅力ある農業創生事業補助金を拡充する。

⑥農業ビジョン基本構想を「プロフェッショナル農業」、「観光・6次化農業」、「地消地産・健康農業」、「土地利用型農業」、「循環型農業」の5つの戦略に基づき農業振興を図る。具体的な実施計画は町民の皆さんに周知する。

⑦令和2年度から令和5年度にかけ測量調査を始め実施設計・用地買収費・造成工事等予算を議

⑧6月1日の全員協議会で、土地収用法に基づく事業認定に時間を要することから、事業着手が遅れる旨の説明を受けた。令和元年6月定例会以降、一般質問で2025年竜王小学校開校を目指す回答を得てきた。これまで議会で審議し、町民に議会報告をし、地域の皆さんや子どもたちから令和7年度開校に期待の声も聞いている。法手続き等課題があると認識するが、これまでの経過と今後の事業進捗について伺う。



完成予定の竜王小学校(上)と現在の竜王小学校(下)



問 「交流・文教ゾーン」整備

事業の進捗は遅れる予想

4〜5か月整備スケジュールが

会で認められ順次実施する予定である。4月13日に事業認定申請書を県に提出したが、利害関係者より「公聴会の開催請求」「意見書」が提出さ

遅れる予想

問 学校給食費の無償化は

答 安全安心な教育環境を整える



おおまえ せつこ 議員

①全国と県内自治体の無償化実施状況は。②本町の現時点での方向性は。

③本町の重要施策として位置付けている子育て支援・次世代を担う若者の定住促進・食育の充実等である中、保護者からは学校給食費の保護者負担は大変だと聞いている。そこで次の点について伺う。

④全国では平成30年度では小、中、共に実施し



学校給食の様子

⑤現在のは76、令和4年度は約250で実施され、全国の自治体数約1700からすると約15%で行われている。県内では令和5年4月時点で小中共に3、小学校のみ1、中学校のみ1、また3人目以降無償の自治体も一部ある。

⑥現時点では財政的な面もあり、物価高騰で保護者への負担増がないよう努めながら支援員配置等でキラリと輝くきめ細かな教育に重点をおく。

⑦全国的な投票率の低下傾向は政治に対する関心の低下等が挙げられている中、本町では主権者意識の確立として街頭啓発や広報車での巡回啓発・防災行政無線・しるみる竜王・ホームページ

⑧令和5年4月に行われた滋賀県議会議員一般選挙の県内の投票率は、42・51%と4回連続で過去最低となっている。しかし本町は53・12%と前回よりも上っている。

⑨令和元年9月に行われた竜王町議会議員選挙では70・68%と近隣市町の50%台に比べ高い投票率であった。しかし更なる投票率向上に向け、商業施設内などの期日前投票所設置の考えは。



期日前投票所(総合庁舎1階町民室)

等で啓発している。商業施設などへの期日前投票所設置は、総合庁舎内での期日前投票者数が増加しており、現状の投票所で問題はないと考えている。

問 投票率向上に向けた取組は

選挙への関心を促し更なる投票率の向上に向けて取り組む



問 消防団員の定員と負担軽減は

答 定員の見直しとあり方の検討は必要と考えている



団員の日頃の訓練の成果を発揮し結束を強めるポンプ操法大会

問 消防団は地域防災の要だが、人口減少を踏まえた定員削減と在勤者も含めたなり手不足解消を考えるべきである。

答 ①国の指針に当てはめた本町の団員の総数は、
②定員の見直しの必要性は、
③在住者と在勤者の割合と、在勤者への勧誘活動は、
④現在自治会の負担軽減が検討されているが、消防団について議論の状況は、

答 当初令和7年4月を目指していたが、測量や設計を進めるなかで小学校の建築工事に約15か月かかる想定し、令和5年度に敷地の造成工事、令和6年度上半期に建築工事を発注、令和7年9月を完成予定としていた。

問

答 できる限り当初の目標に近づける

問 新小学校の開校時期は

答 できる限り当初の目標に近づける

月から5か月遅れると見込んでおり工事に影響する。現時点では、明確な完成時期は申し上げられないが、まずは小学校の建築設計が遅れることのないよう進め、できる限り当初の目標に近づけるよう鋭意努力する。



県に提出されたコンパクトシティ化構想の事業認定申請書



問 下水道管整備を行った農道の状況は

答 道路の種類別は把握していない



下水道管の布設の様子

問 令和8年に殿村地区農業集落排水処理施設の廃止予定に伴い、現在、綾戸地先の農道に下水道の圧送管の埋設を計画していると聞いているが、万が一、下水道の本管や圧送管が詰まったり破損したりした場合は早急に復旧工事が行えるように、下水道の本管や圧送管は町道や県道等に埋設されている方が都合が良いと考えるが、次の2点について伺う。

答 ①下水道事業の観点からは、県道、町道、農道等の道路の種類別に管理していないため延長は把握できていない。②農道に限らず下水道管渠が詰まった場合は、高圧洗浄作業により対応している。また、管渠が破損し汚水が排水できなくなった場合は掘削により管渠を修繕する。できる限り日常生活に支障を来さないよう早急に対応していく。

問 近江八幡消防署竜王出張所の人員確保を

答 引き続き議論を重ねる



近江八幡消防署竜王出張所

問 近江八幡消防署竜王出張所は、一隊編成になっているので、消防車と救急車が同時に出勤することはできない状況である。私は、東近江行政組合代表者会議で何回か質問や意見を述べてきたが、現状のままである。竜王町を安心安全なまちにするには、現在の一隊から二隊に再編すべきと考えるが町の考えを伺う。

答 近江八幡消防署竜王出張所の職員数は12名であり、1係6名の2係体制が敷かれ、24時間交代の隔日勤務体制となっている。このことから、火災と救急事案が重なった場合、同時に複数の事案に対応できず、配備されている設備を有効に活用できないことは、町としても課題であると認識している。この課題を解決するためには、適性人員数をはじめとした組織体制全体のあり方について、構成市町である2市3町が一つの方向性を見出す必要があると考えている。出来る限り効果的な体制が確保できるよう引き続き議論を重ねていく。



橋 せつこ 議員

問 中心核「交流・文教ゾーン」整備の進め方は

答 ご理解いただいていると判断、説明会はしない

問 4月12日付で県に提出の「竜王町中心核『交流・文教ゾーン』整備事業」の事業認定申請書は、5月11日まで町役場で縦覧が行われた。その内容は2月の土地収用法の事業説明会や3月の議会でも提出されていないもの（各施設毎の平面図や予算等）が多く含まれていた。

① 町民にも議会にも示されず申請書が提出されることは問題ではないか。

② 申請書の各施設の予算合計約49億6千万円には物価高騰分は見込まれているか。

③ 財政計画を示して説明会の開催を。

答 ① 申請書の各施設の内容や事業費は、整備に必要となる土地収用を目的に町行政として作成したもので、今後、各施設の整備時期に合わせて詳細設計を行う中で、御意見を賜り、施



竜王小学校建設予定地

設内容を固め建築費等算出する。

② 今後、各施設の設計を進める中で、物価高騰分も考慮して事業費を算出する。

③ 本事業は多くの方々に御理解頂いていると判断して進めており、改めて事業説明会の開催は予定していない。

問 令和5年3月議会一般質問で「コミュニティセンターは竜王町公民館の機能を含めたものとし、将来的には現在の町公民館は老朽化もあるので除却（解体し更地に）する」という回答がされた。

① これは初めて示された内容で、町民には十分な説明と同意を得る必要があると思うが。

② 公民館機能を含めたコミュニティセンターの建設費は10億円から20億円の予算が必要だが、「交流・文教ゾーン」からは外して考えると回答された。事業認定申請書にも含まれているがどういったか。



現在の町公民館

答 ① 「地域コミュニティ維持・活性化」の検討の中で住民アンケートやヒアリングを行う一方、公民館利用者からも広く意見を聞きながら進める。

② 築49年を経過した公民館がこれまで担ってきた機能をいかに残していくかが重要であり、国等の財政支援が期待

できるコミュニティセンターを整備して公民館の機能を引き続き、人材育成やまちづくりの拠点を作りたいと考えているが、これは交流・文教ゾーンの整備事業で行うものではなく、個別に検討していることから「外して考えていく」と回答したものである。

問 コミュニティセンターと町公民館のあり方は

答 「交流・文教ゾーン」から外して考えていく



尾川 こうざぶろう 議員

問 町道の維持修繕は

答 道路管理システム改修を研究し、維持管理をより効率よく行えるように考える

問 本町の町道は、約11.8kmで耐用年数は、10年から15年であるがこれを大きく超え破損しているものも多くみられる。

どのような基準で更新を行っているのか。また、道路台帳管理システムに経過年数、劣化度を定期的に入力し予測し計画的に行う考えはあるのか。

答 健全度評価は、国の舗装点検要領や小規模附属物点検要領で、路面標



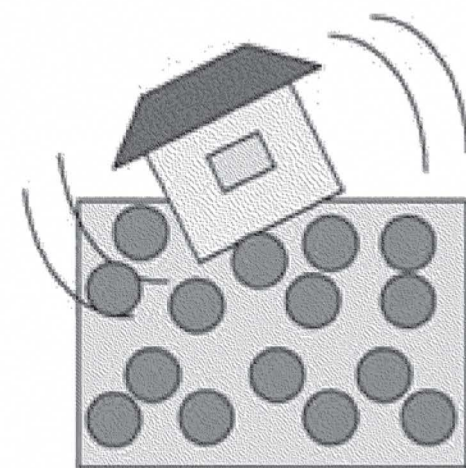
町道西通り線の現状

示は、日常のパトロール等において目視で行っている。修繕方法については、部分的な補修は、集落の町道、切削オーバーレイは2車線の町道、路盤を含む舗装改良は幹線的な2車線の町道で行っている。本町の道路管理システムは、町道の幅員や延長等を情報管理しているが、標識等の配置や点検に基づく健全度までを一元管理しているものではなく、今後研究し道路の維持管理をより効率よく行えるように考える。

問 地震の対策は

答 今後、ハザードマップの更新で既存資料の調査を含め研究する

問 竜王町ハザードマップでは、平地面で震度6強、山地部では、6弱となっており地域の危険度マップによると5%から10%未満の区域の建物が全壊すると予測されている。また、県の液状化危険度マップによるとPL値（流動化指数）が15以上の地域から液状化が発生し、対象となるのは本町の平地部である。液状化が発生すれば基礎が無くなり建物は破損するので液状化を詳細に判定する必要がある。既存の土質データと土質資料を採取し液状化マップを作成し、耐震化計画を作成すべきではないか。



地震中（液状化）

液状化模式図

答 土質資料を採取してPL値を測定し、詳細な町内液状化マップを作成することについては、直ちに困難であるが、今後、各種ハザードマップの更新において、既存資料の調査を含め研究する。



さわだ みちお 澤田 満夫 議員



問 滋賀県立大学との包括連携協定の成果は

答 当町の魅力発信や施策への提言などに貢献いただいている

問 令和元年に竜王町と滋賀県立大学は、地域社会に貢献することを目的に包括連携協定を締結したが、その成果は。

答 滋賀県立大学から、竜王の歴史や文化、記憶に残る風景などをテーマに作成された「竜王五感のおもいでカルタ」を寄贈いただき、当町の魅力発信に貢献していただいている。また、先生方には、総合計画審議会、環境審議会、地域公共交通活性化



竜王五感のおもいでカルタを作成された滋賀県立大学の皆様

化協議会、重層的支援会議等の審議に参画いただき提言やアドバイスをいただいている。施策の検討等についても、随時相談やアドバイスをいただいている。一方、同大学においても人材の育成や地域の課題解決に向けた取組を進められるに当たり、本町とは相互の機能補完や相乗効果により良好な関係を維持している。

今後も、連携を深め施策の充実を図り活力あるまちづくりを進めて行く。

問 町有地のうち用途を廃止した土地については、他に活用の見込みがない場合は、売却や一時的な貸付を行うことにより有効活用している。

答 該当の鵜川の旧小学校跡地は、平成21年度に用途廃止した。以来、須恵地先の町有地と同様に定住促進のため住宅地としての有効活用が図れるよう調査検討を進めてきた。直近では、宅地開発想定地区に関する事業者ヒアリング調査を行ったが、現時点においては進展はない。

少子高齢化による人口減少が進展する中で、婚



鵜川の旧小学校跡地

問 鵜川と七里にまたがる旧竜王西小学校跡地の有効活用についてどのように考えているのか。

答 婚姻後も町内で定住している、該当地も含めて環境を整え、定住の促進を図りたいと考えている。業に通勤される若者が町内で住宅を建てられるよ

問 鵜川の旧小学校跡地の有効活用は住宅地として有効活用を図ってきたが進展はない

答 住宅地として有効活用を図ってきたが進展はない

問 IBMグラウンド跡地の現在までの進捗は

答 引き続き土地所有者と協議を進める



もりおか よしお 森島 芳男 議員

問 令和4年第2回定例会にて質問した回答では「令和4年5月18日に町長自ら土地所有者の本社へ赴き早期の事業実施を改めて要望した。今後も引き続き土地所有者と協議及び情報共有を行い、住宅整備の進捗を促していく」と答弁されたが、その後の進捗状況を伺う。

答 令和4年11月18日に、町長自ら日本IBMの本社へ赴き現状の課題等について協議を行い、強く



IBMグラウンド跡地

要望した。令和4年度、複数の事業者から問い合わせがあり協議を行ってきたが、進捗は見られなかった。今年度に入り5月には新たな事業者からの引き合いがあり現状の可能性を含め協議を行っている。本町としては、当地を住宅地整備の有力地として地区計画を定めているが、長期にわたり出口が見えない状況であり、他の用途の可能性も視野に入れつつ引き続き土地所有者と協議を進める。

問 台風2号の影響により、短時間に線状降水帯による大雨が各地で発生した。平成29年10月の台風21号では、日野川支川の一級河川新川が日野川の水位上昇により越水、決壊し沿川住民に対し避難指示が発令され逼迫した事態となった。豪雨による護岸欠損、河床洗堀、堤体漏水などについて点検調査を行う等、補強対策が必要と考えるが町の見解を伺う。

答 日野川改修については、竜王町内の工事着手までには、歳月を要するもので、滋賀県では抜本改修までのリスク軽減のためとして、善光寺川合流点から岩井地先までの約8キロメートルの区間を、堤防の質的強化を行う「トラ

シク河川」と位置付け対策を検討されてきた。令和3年度から西川地先で遮水矢板等の堤防補強工事を実施、今年度は、弓削地先で川裏土留め工に着手予定。日野川改修の要望とともに今後も必要箇所の堤防補強対策について計画的に進むよう働きかける。



早期改修が望まれる日野川（弓削地先）

問 日野川の補強対策は技本的な改修要望を行う

農林公園



表紙

「竜王新古今八景」とは、町内各地に根付く、風習・人々の生業・現在まで受け継がれてきた地域の価値観・竜王を形つくる新しい顔を意識した心象風景です。

中世に始まった山中、岡屋、小口、薬師、七里、西川、西横関、山之上、田中、橋本に残る「虫送り」は、6月～7月に行われる農耕神事。野道を松明・鉦・太鼓を叩きながら列をなし、川上の集落から松明の灯を引き継ぎ、害虫駆除と豊作を祈る農家の大切な行事とされてきた。複数集落を単位とした神事が今に続いている。

民俗芸能神事のケンケト祭は、鉦や太鼓、そして歌舞によって今も斎行されている盛大な祭である。由来の一説に戦国時代に織田信長軍に従って戦った山之上の人々の姿を再現したものといわれる。この祭は、国の重要無形民俗文化財であり令和4年には「風流踊」としてユネスコの無形文化遺産に登録された。

なお、裏表紙の「竜王八景」は、山之上の農林公園です。

編集後記

木陰が恋しい季節となりました。この時期は熱中症が多発しますが、正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。お互い気を付けて過ごしたいものです。

さて、今年の前半は、日本を舞台に多くの外交が展開されました。原爆慰霊碑での首脳らの祈りに始まりウクライナの大統領が連帯と平和を訴えて終わるという演出の被爆地・広島で開かれたG7首脳会議は、印象に残りました。

町議会でもコロナ対策の緩和により他市町との交流も徐々に戻っています。5～6月には、各常任委員会で課題を定め視察研修を致しました。今後も視察をはじめ様々な方法により継続的に情報収集していくことが重要であると考え、議会活動に取り組んでまいります。

議会広報特別委員会

委員長	鎌田 勝治
副委員長	森島 芳男
委員	澤田 満夫
委員	尾川幸左衛門
委員	磯部 俊男
委員	貴多 正幸